

令和5年度釜石市水産審議会結果

1 日時

令和6年3月26日（火）13：30～15：00

2 場所

公益財団法人 釜石・大槌地域産業育成センター 2F 大会議室

3 出席者（敬称略）

(1) 出席委員（12名）

木村 嘉人会長、小川原 泉委員、佐藤 雅彦委員、筒井 実副会長、平野 ヨネ委員、
佐々木 淳子委員、高澤 友子委員、前川 良子委員、伊藤 治郎委員、高橋 文秀委員、
佐々木ひろ子委員、平井 俊朗委員

(2) 市側出席者

釜石市長 小野 共、産業振興部長 小山田 俊一、水産農林課長 小笠原 太、
水産農林課 水産振興係長 萬 大輔、水産農林課 主事 加藤 直人、
水産農林課 主事 星野 恭佑

4 傍聴者

なし

5 報道関係者

3社

6 議事録

(1) 開会

(2) 市長あいさつ

市長の小野でございます。まずもって本日はお忙しい中、本審議会にご参加をいただきまして心から御礼を申し上げさせていただきたいと思っております。

第六次釜石市総合計画であります。生産・流通体制の強化や漁業者の皆様の所得向上、魚のまちが感じられるまちづくりに取組み、魚のまち「釜石」復活を目指すこととしておるところであります。

しかしながら、皆さま既にご存じでありますように、近年、地球温暖化や海洋環境の変化などを起因とする資源変動によりまして、長期にわたる主要魚種の不漁が続くなど、水産業を取り巻く環境は厳しさを増しておるところでございます。そのような中、令和2年度であります。サクラマス海面養殖試験研究に取り組んだ結果、令和4年度には漁業権を取得いたしました。事業化に移行いたしました。生産活動の本格稼働の後、初の水揚げとなった令和5年度は、約160トンのサクラマスを水揚げをいたしました。生産事業者におかれましては、将来的には年間約1,000トンだそうでありまして、1,000トンの生産を目指していると伺っておりますので、大きな期待をしているところであります。

当市といたしましても、飲食店や水産加工事業者等を対象といたしましたセミナー、そしてワークショップを開催いたしましたほか、市内19店舗で釜石はまゆりサクラマスを喫食できるサクラマスフェアを実施するなど、サクラマスのプロモーション活動に取り組んでまいりました。

た。今後も、岩手県立大学様をはじめとする関係事業者で構成しておりますプロモーションコンソーシアムと連携いたしまして、サクラマスの更なるプロモーション活動を展開してまいりたいと考えております。

また、新たな話題ではありますが、今年度から、養殖ワカメ及びコンブを対象といたしました本市独自の釜石版ブルーカーボン・オフセット制度を創設いたしまして、運用を開始しておりますところであります。

委員の皆様には、海洋環境の変化に伴う主要魚種の不漁をはじめ、漁業者の高齢化あるいは後継者不足などの課題や漁協合併など新たな市内における状況の変化が生じている中でも水産業の振興を進めてまいりたいと考えておりますものですから、本日は忌憚のないご意見をお願い申し上げまして、当審議会を開催にあたっての挨拶とさせていただきます。今日はどうぞよろしくお願いたします。

(3) 委員紹介

○出席委員、欠席委員及び事務局の紹介を行った。(委嘱状は予め各委員席へ配布)

○水産審議会条例第5条第2項において、審議会は、委員の半数以上の出席をもって成立することとされており、委員18名のうち、12名の出席しているため、会議は成立している旨報告。

(4) 会長・副会長選出

○水産審議会条例第4条第1項の規定に基づき、会長及び副会長は委員の互選により選出されることとなっているが、委員から「事務局案の提示」の声があり、事務局案の会長に釜石市漁業協同組合連合会 会長の木村委員、副会長に岩手県沿岸広域振興局水産部 部長の筒井委員を提案し、承認された。

○会長、副会長選出後、審議会委員名簿を配布。

(5) 会長あいさつ

会長に選出されました木村です。何卒よろしくお願いいたします。本日はお忙しい中、審議会に参集いただきありがとうございます。

さて震災から13年を迎えましたが、水産業は秋サケ等の大不漁や磯焼けによるウニ、アワビへの影響、或いはホタテガイの貝毒等、海洋環境の変化による課題が山積しております。

また、ALPS 処理水の海洋放出による中国等の輸入規制措置等の影響により、アワビの単価下落が生じており、風評影響が懸念されるところであります。加えて、震災前からの課題である高齢化に伴う漁業者の減少にも歯止めがかかっていない状況でございます。

本日は、釜石市の水産振興施策の取組み状況等について報告をいただく内容となっております。現在の取組みをお伺いしながら、これからの本市水産業の発展のため、委員の皆様からの積極的なご発言を期待するものです。しばらくの時間、進行役を務めますので、よろしくお願いいたします。

(6) 報告

発言者	発言要旨
市水産農林課 萬係長	(1) 水産施策等に係る現状報告 ア 釜石市魚市場の水揚げ等について (資料1) から カ 担い手の確保及び育成について (資料6) まで (2) その他 ア 釜石市水産振興ビジョンについて (資料7) の内容を報告。
筒井副会長	<p>釜石市の水産施策に関しては、基本的には本県水産業の課題の認識、それに対する取り組みの方向性は、同じ方向を向いて進めているという印象。中でもカーボンニュートラルに関しては、県内でも先行した取り組みであり、サーモン養殖の中でも特色のあるサクラマスを養殖するという事で先陣を切って取り組んでいただいている。</p> <p>短期的な解決が難しい課題に対して、ある程度長期的に取り組んでいく必要がある。しかし、現状の課題の背景には、海洋環境の変動がある。昨年秋から年末にかけて、夏場の水温が下がらないというこれまでなかった現象があった。年が明けて、平年並みの水温になったが、昨日から沖にあった暖水が一部接岸して、昨日は山田湾で16度を超える水温が記録されている。通常3月は最低水温期であるが、15度を超える水温が記録されることは、長年の経験からもないことで想像すらできなかった事態。この水温上昇、環境変動は思っていた以上に深刻でなおかつ進行が早い。そのため、長期的な取り組みを考える場合は、環境変動を見据えた上で、今後の取り組みを考えていくことが重要であろう。</p> <p>担い手対策に関しては県、関係団体が主体で市町村、漁協に支援いただいているいわて水産アカデミーですが、毎年受講生が10人前後であり、高齢化等でやめていく漁業者の数をとても補える数ではないのが現状。来期に関しては、受講者がこれまでの中で1番多くなる予定で、漁家子弟や県外からの受講者が目に付く。このことから県外からの受講生に対して県としては移住定住対策、加えて地元の受入れ体制や地元自治体の支援が重要となってくる。県も一緒に協力して取り組んでいきたい。</p>
木村会長	<p>海洋環境、水温上昇の話がありましたが、現在、養殖ワカメの刈り取り時期。現時点では影響はないが、15度を超える水温が続くと大変であるし、今後のホタテ養殖にも影響が出てくると思われる。対策は難しいため、どうしたらよいのかというところ。</p> <p>水産アカデミーは来期13名、大阪出身の方もいた。今期は5名。</p>

発言者	発言要旨
平井委員	<p>資料1にある魚市場の水揚げ、水揚げ量が昨年同期比で下がっているが、水揚げ金額は上がっている。主たる理由は何か。</p> <p>今後、魚の獲れる量が劇的に増えることは考えられない。そうすると少ない魚をいかに高く魚を売っていくかが重要となってくるし市を挙げてやっていくということであると思う。</p>
市水産農林課 小笠原課長	取引単価の高騰、魚自体の単価が上がっていることが要因。
平井委員	それは良い方向であると考えているか。
小笠原課長	マイナスではないと捉えている。
平井委員	高い値段をうまく維持していく施策を取り組んでいくということになるのでしょうかね。新たな水産業、魚市場の取り組みとして何かヒントになるものはないかと聞いたところです。
平井委員	<p>県内ではサーモン養殖が順調に拡大している。拡大していく中で肝心なのは種苗の生産であり、陸上で行われている。サーモン養殖を拡大するためには、良い種苗をしっかりと作る事業者を育てる必要がある。現在、内陸部で種苗が生産されているが、主に宮城県の養殖用のもので、新たに岩手県分も生産を依頼する場合、生産する設備がないという状況になっている。そのため、新たに設備を作る、新たな生産事業者を育てる、養殖事業者が自ら種苗を作るといった対応が必要となる。</p> <p>その他、これまでの水揚げ量であれば地元の加工業者でも対応可能であったものが、養殖が拡大され、水揚げが増えていくと加工も追いつかないということになってくる。宮城県の業者に依頼することも取扱量から厳しくなってくる。地元で加工できるのか、さばいて流せるのかという課題も出てくる。</p> <p>サクラマスを全国に流通させることも大事だが、釜石に来てサクラマスを食べてもらう方向にもっていきたいので、市全体として色々な角度からサクラマスという素材に関わってまちづくりをしていくことが大事である。</p>
筒井委員	先ほどの今期の魚市場の水揚げ量、金額に関する質問に関して、きちんと分析したわけではないが、一番の要因はマダコの水揚げではないかと考えられる。水揚げ高サクラマス1.3億円に対して、タコ類が3.77億円のマダコが量も取れて値段も高い。先ほどの水温上昇に関してマダコには良い環境であるが、タコによるアワビの被害もあるので喜んでばかりはいられない状況。

発言者	発言要旨
伊藤委員	<p>宮城県のギンザケの加工は、かなり前から岩手で行われており、知っている範囲であれば宮古市と釜石で数百トン規模。今後サクラマスの生産が拡大されて、地元で加工できるかという懸念はその通りだと思う。</p> <p>定置網、サンマ、旋網はその年により取扱量は異なるが、旋網で言えば、自社のみが取り扱いしている。もう1社はギンザケの加工にシフトしている。自社でも無理して取り扱っているところもあり、これ以上の対応は困難である。</p>
前川委員	<p>漁業就業者育成事業に関して、新規漁業就業者は、就業したからすぐ生活が安定するわけではない。漁に出てから学ぶこともあり、支援金に関しては1回のみではなく、生活が安定するまでに対するものや能力や体力等個人差もあるため、新規漁業者からの意見も聞きくなどして、色々な支援の在り方を考えていく余地があると思う。</p>
小笠原課長	<p>これまで漁業就業者に係る支援に関して支援補助金として就業支援金、生活支援金、独立支援金、親方支援金といった制度を運用してきた。漁協様対象であるが、残念ながらニーズが無かった。今後も漁協様のニーズや予算の組み立てというところも含めて課題とさせていただきます。</p>
小川原委員	<p>最近、潮流の関係で定置網が流されるなど事故が増えてきており、心配している。</p> <p>定置においてサケ、サバの水揚げが減っているが、マグロはかなり増えている。岩手県の定置網マグロ再放流数、大型漁で740トンという新聞報道があった。海区調整委員会など県の会議等で配分量増やすよう水産庁に陳情できないか発言している。配分を受けるだけでなく、放流数についても持参して要望をすることも必要ではないかと思っ取り組んでいる。現状増えていないことは残念に思う。</p> <p>ホタテの貝毒について、大槌湾はこれまで12～1月が時期であったが、今年は11月～現在まで続いている。養殖しても半年販売できないとなると養殖自体を続けていくか考える漁業者もいる。</p> <p>海面養殖について、釜石東部漁協のふ化場を東日本大震災後、復旧した。当初、水産庁はサケ以外不可としていたが、最近条件が緩和されつつある。現在、ギンザケの中間育成を計画。施設設備上、卵からの育成も可能な施設との見解もあり、今後は中間育成のみならず卵からの育成等地元に貢献したいと考えている。</p> <p>温暖化の影響で漁獲魚種が変わってきて、魚市場の水揚げも減ってきている。いわしで言えば、これまで20円だったものが、今は単</p>

発言者	発言要旨
	<p>価が80円～100円となっており、数量減でも水揚高が上がっている要因ではないかと思われる。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>現在も水温が高い状況であり、これからウニ漁も始まる。このまま水温が高いまま推移ということであるので、これからもマダコが獲れる可能性があり、期待はしている。その反面、筒井委員が言うようにアワビの食害も懸念される。現状を踏まえ、今年度のウニ、アワビについては最悪を予想している。また、水温が20度超えた状況で育成はできないが、養殖ワカメについても何とか作業したが、来年度に向けての種苗育成がこの条件下では難しい。</p> <p>貝毒については、多少価格は安くなるが加工具で売った方が良いと思っている。1つでも貝毒が出ればすべて出荷できなくなる。貝毒が心配される部位を取ってスーパーに卸したり、あまり貝毒の心配がない北海道でも現在は行われている。殻付きで売る時代は近い将来なくなると思っている。現状を受け入れ、加工具で売れる時代が来るので心配しないでよい。</p>
<p>佐々木（淳）委員</p>	<p>先般の水産フォーラムでヤマキイチ商店の方が発表していたのを聞いて思ったことがある。今の佐藤委員の話ではないが、貝毒に関して、売り方、やり方次第ではないかと思った。それを実践しているのがヤマキイチ商店。貝毒を心配しなくて良いということは無いが、やり方次第で対応できるのではないかと思う。</p> <p>サクラマスに関して、他市では、たら祭り、カニ祭り等イベントの開催、CMなど、PRしていると感じるが、釜石市はそういったイベントもなく、露出が少ないと感じている。</p>
<p>木村会長</p>	<p>合併に関して、事業計画のたたき台について専門委員会で協議中。県の計画によると令和7年4月の合併を目指すとなっているが、関係漁協の組合員や職員の合意形成が必要となるため、もう少し時間がかかるであろう。今後、専門委員会を開催し、まとまれば進んでいこうと思う。各漁協6月の総会には間に合わないが、臨時総会で対応するなど今後話し合っていく。</p> <p>魚市場に関して、今年度市から4,400万円の補助金をいただき、経営の安定を図るべき取組みを行ってきたが、経営状況は極めて厳しい。償還を延伸してきたものが4月以降再開される等もある。まずは新年度理事会を開催して検討したい。今後は、市長も交え、魚市場の在り方等協議していきたいと考えているのでよろしくお願したい。</p>

○市産業振興部小山田部長より挨拶

- ・委員の皆様からたくさんご意見頂いたことに感謝する。
- ・短期的解決が難しい課題、長期的な取り組みとして進めていきたい。
- ・支援制度、人材育成の視点で、一次産業全体への支援について具体的に協議していきたい。
- ・プロモーションの中でサクラマスを地域資源としての発信の仕方を工夫したい。
- ・魚市場は、経営状況厳しい中であるが、様々な支援しながら水産業を再生したい。
- ・水産振興ビジョンは漁協合併、魚市場の経営状況を見極めながら見直しの時期を判断していきたい。

(6) 閉会